



TITLE:

(桂)図書館棟寄付の無期延期に伴い
バックナンバーセンター(BNC)及び
理工学系外国雑誌センター移設計
画も白紙に

AUTHOR(S):

CITATION:

(桂)図書館棟寄付の無期延期に伴いバックナンバーセンター(BNC)及び
理工学系外国雑誌センター移設計画も白紙に. 静脩 2007, 43(3-4): 8-8

ISSUE DATE:

2007-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/39323>

RIGHT:

意味がうまれる。

私は同じような手法で、日本語に英語のルビをふる用法を専門用語として活用してきた。たとえば「現場」と表記すると、日本語のもつ、今ここでまさに起こるという意味の「現場(げんば)」と、原野という意味の「フィールド」、両方の意味を共鳴的に複合できる。専門用語も、表層を流れるカタカナ語のオンパレードにしたい、しかし日本語だけでは不十分というときにも、ルビが役に立つ。それで「生成継承性」^{ジェネラティビティ}「省察性」^{リフレクシビティ}など、ルビ付きの訳を試みてきた。

今、私は『喪失の語りー生成のライフストーリー』(新曜社)という本を刊行するために、あとがきを書いている。そこであらためて『莊子』を読んでみて、その解釈はさまざまな可能性にひらかれていると感じる。この本では、「喪失」を「生成」と両行的にむすびつけようとしているが、私のめざすものが単なる「逆転」ではなく、「両行」なのだということが、ますますはっきりしてきた。

莊子は、自己を「喪った」ときの姿を、最愛の妻を「喪った」ときの姿になぞらえている。外から見れば妻を喪ったときのように生氣なくひから

びているようでも、その当事者にとっては自由に空を舞いながら胡蝶の夢を見ているのかも知れない。また「喪う」ことによって、自己はかつての自己ではなくなり、新しい自己に生まれ変わるのである。次のような私流の訳も、きっと福永先生は大目に見てくださるにちがいない。

「喪^{うしな}う」ということばが胎んでいる矛盾を含みこんだ多重の意味、その多声の響きを我が身を痛めながら覚知していくプロセスが、生きるということかもしれない。

シキは、机にもたれて坐り、天を仰いでふうと息をついています。そのうつろなさまは、妻の喪^もにふくしているかのようです。

シユウは、問いかけました。「いかがされましたか。体は枯れ木のように、心は死に灰のようではありませんか。今、机にもたれている者は、昔、机にもたれていた者とは、^{ことな}非っております。」

シキは、言いました。「よい問いですね。今、私は我を喪^{うしな}っていました。あなたはこれを知っていますか。」

(『莊子 内篇』齊物論篇より やまだ訳。)

(桂)図書館棟寄付の無期延期に伴いバックナンバーセンター(BNC)及び理工学系外国雑誌センター移設計画も白紙に

2006年11月20日に京都大学ホームページのニュースリリースで報じられたとおり、京都大学(桂)図書館棟の建設が寄付者の意向により無期延期になりました。

それに伴い(桂)図書館棟内に自動化書庫を設置して附属図書館BNCの自然科学系外国雑誌の一部及び理工学系外国雑誌センターを移設する計画も白紙に戻りました。

なお、工学研究科・情報学研究科の合同図書館の性格も兼ねる桂キャンパスの拠点図書館建設は桂キャンパスの整備計画に明記されており、京都大学にとって重要な懸案事項でありますから建設に向けて学内で継続して新たな方策を検討することになっております。図書館機構としても推移を見守り関係部局と協議して対応していく予定です。

バックナンバーセンター : <http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/BNC/framebnc.html>

理工学系外国雑誌センター : <http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/etc/gaikoku-j/gaikoku.html>